

校名：岐阜大学教育学部附属小学校

所在地：〒500-8482 岐阜県岐阜市加納大手町74 電話番号：058-271-3545

記載日：平成28年5月18日

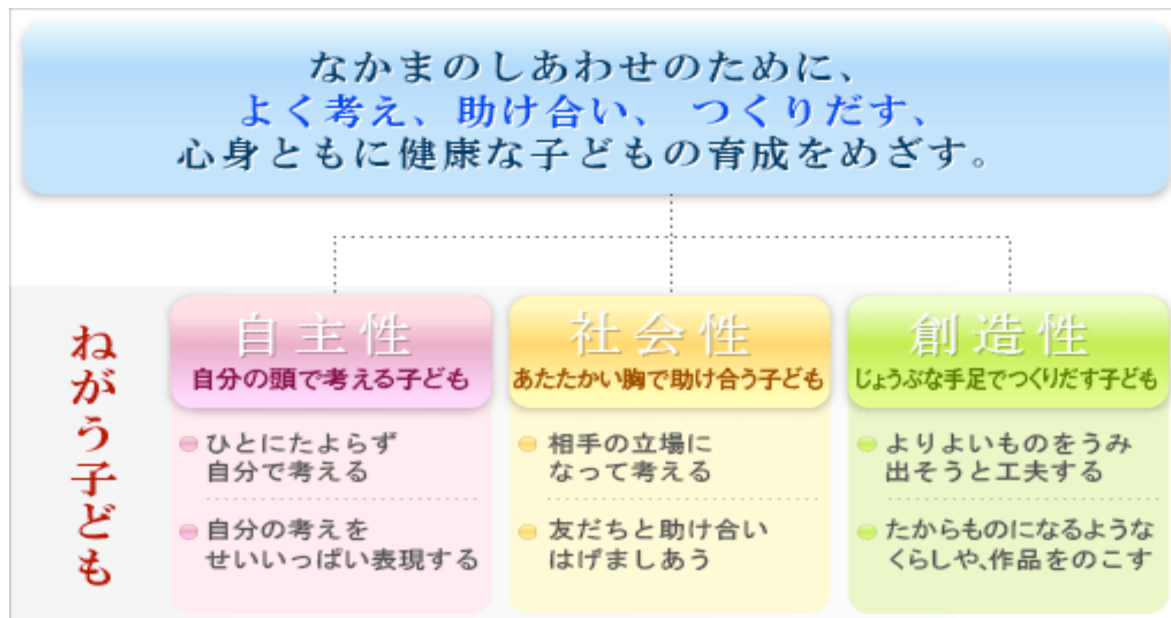
記載者：中村 美雪

記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

岐阜大学教育学部の附属学校として、学部と一体となった先進的な初等教育の実践及び、教員養成を使命としています。

昭和29年4月創立以来、「人間教育」を学校の教育理念とし、理想の全人教育を目指しています。また、本校には知的障がい者対象の特別支援学級が3学級併設されており、共生の考えに立った生き方を学んでいます。さらに、中学校との連携を密にすると共に、小・中学校一貫した教育理念のもと、特色のある教育課程を編成して実施しています。



貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていません。
- ② スポーツ界では、山脇佳奈氏（体操）坪井保奈美氏（新体操）朝倉健太氏（中日ドラゴンズ）角屋龍太氏（オリックスバファローズ）
芸術家では、日比野克彦氏 がおみえになります。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていません。
- ② 各市町の公立学校の教諭・主幹教諭・教頭・校長または、県教育委員会や各市町教育委員会の行政職にて活躍しています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○発達の段階に応じて、栽培、飼育、奉仕、広報等の仕事を分担し、児童と教師が一体となって全校に働きかけたり、交流したりしています。

○仲間との関わりを大切にし、異年齢集団活動（「かぞく」）や児童会活動を中心に、自治的・自発的な態度や望ましい人間関係の育成を目指し、自己実現を図る指導の充実に取り組んでいます。

○目的に応じて、情報の収集や発信をする能力を育てるために、ICT 機器を積極的に活用しています。



ふぞくっこの
くらし



○本校の研究については以下のとおりです。

平成 28 年度研究主題：

なかまと共に、新しい価値を創り出す児童の育成

～ 協働的な学びを促す授業デザイン ～

学校の教育目標

なかまのしあわせのために、
よく考え、助け合い、つくりだす、
心身ともに健康な子どもの育成をめざす。

自主性 自分の頭で考える子ども
社会性 あたためた胸で助け合う子ども
創造性 じょうぶな手足でつくりだす子ども

我が国の将来を担う子どもたちには、変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けること。

中央教育審議会の初等中等教育における教育課程の
基準等の在り方についての諮問（平成26年11月）

○単元や領域を連続性や関係を意識し、問いをつなぐこと。
○自分の考えや表現を見つめ、より教科特有の本質に迫ること。
△自分の考えを表出するだけにとどまり、仲間の考えを受け入れながら学びを深められないこと。

前回研究の成果と課題

研究主題

なかまと共に、新しい価値を創り出す児童の育成

第1年次

～協働的な学びに焦点を当てて～

＜願う児童の姿＞

問いを解決しようと「もの・こと・人」に主体的に働きかけ学習に取り組む中で、自分なりの考えや表現をもち、考えや表現をなかまと交換、共有し、再び吟味することで深め広げる協働的な学びを通して、新しい内容や質的に高まった見方や考え方や表現を創り出す児童の姿

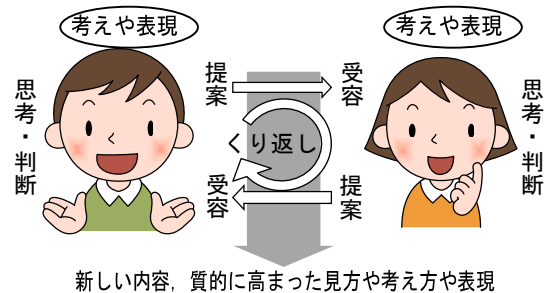
＜願う協働的な学びのために意図的に育みたい力＞

＜提案すること＞

- ア 自分の考えを相手が理解し、応じやすいように、何に基づいて、どのように考えたのかを表現する力。
- イ 相手の考えを受けて、新しい考えを生み出し表現する力。

＜受容すること＞

- ア 賛否に関わらず受け入れる力。
- イ 何に基づいて、どのように考えたのかを理解する力。
- ウ 目的や状況に合わせて判断する力。
- エ 相手の理解や納得の程度を読み取る力。



第2年次

～協働的な学びを促す授業デザイン～

【研究内容1】児童の発達の段階にあった各教科部の目指す協働的な学び

児童の発達の段階（児童の実態）と教科の本質から、明らかにします。

授業デザイン

【研究内容2】協働的な学びを組み込んだ単元・題材計画と教材設計

協働的な学びを組み込みながら単元・題材計画を作成します。

協働的に学んだからこそ見方や考え方や表現が広がり深まる。知識・技能・考え方を活かして教科の本質に迫る学びにつなぐ。

協働的に学ぶ中で、これまでに学習した内容を有意義に引き出し、絡めて教科の本質に迫る深い学びにつなぐ。

【研究内容3】協働的に学ぶ必然のある状況づくり

協働的に学ぶ必然のある問題や学習課題

児童にとって必然のある提案・受容

児童にとって必然のある提案・受容

児童にとって教科の本質に迫る視点

児童にとって必然のある提案・受容

協働的な学びを促す教師の働きかけ

児童にとって必然のある提案・受容

教科の本質

教科の本質に迫る
思考力・表現力・判断力

<中間研究発表会（2年次）の日時>

平成28年6月18日（土）9：15～

*詳しくは本校HPにてご確認ください。

○ 昨年度（平成27年度）の中間研究発表会（1年次）の参加者数は約665名でした。

大学関係者・・・・・・・・・・約 25名

県外附属・・・・・・・・・・約 20名

県内一般・・・・・・・・・・約320名

県外一般・・・・・・・・・・約 30名

行政関係者・・・・・・・・・・約 60名

その他・・・・・・・・・・約 40名

教員免許更新講習参加者・・・約170名

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

入試選抜された児童を教育するのではなく、市町の公立学校と同じく誰もが学習できるよう門戸を開き、教育を行っています。そのため、本校での取組や研究を公開し、その意義や手法を地域の学校に伝えていくことで、県全体の教職員のスキルアップ、学力の向上に貢献しています。

また、平成27年度より文部科学省の「新たな学びに関する教員の資質向上のためのプロジェクト～アクティブ・ラーニング指導法研修・開発事業～」における開発実践フィールド校の指定を受け、岐阜県教育委員会や岐阜市教育委員会、岐阜大学と連携し、研究実践の成果を県内外に広く公開し、地域のモデル校としての役割を果たそうとしています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○ 国立大学の教育学部は、学生に対し教員としての即時的なスキルでなく、教育の理論、教員としての素養を重点に指導することに矜持をもち、その思いは、附属学校も共有しています。そのため、附属学校における学生の養成に関わっては、教育課程の時数確保が難しい現在においても、大学1年生より教育現場を観察し、教育実習を迎えるまでに相当数の授業を参観できるよう附属学校で場を用意しています。また、実習指導においても、教科指導や学級経営、生徒指導など総合的な内容で指導しております。

長期的な視野に立って大学と現場が協力して教員養成をすることが可能となることにより、様々な事案に対応でき、折れない心をもった教員を送り出すことができます。

○ 本校は、地域のモデル校として先進的な教育を行い、情報発信していくことを目指しています。そのため研究内容においては、文部科学省の求める教育指針に即した研究を行うことが可能で、その体制づくりも速やかに行えます。